

2016全国高齢者集会

中央労福協 花井圭子事務局長あいさつ

ただ今、ご紹介いただきました中央労福協事務局長の花井と申します。「2016 全国高齢者集会」の開催、大変おめでとうございます。開会にあたりまして、中央労福協を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、日頃より地域において社会運動、文化運動、ボランティアなど様々な活動に取り組まれている皆様に心より敬意を表します。また、中央・地方労福協と連携いただいておりますことに、感謝申し上げます。

中央労福協は1949年、戦後の食料・物資難の時代にイデオロギーの違いを超えて「福祉はひとつ」を合言葉に労働団体と生活協同組合が結集して設立されました。今日までに「共助」を基本とする労働者自主福祉運動に取り組んできています。中央労福協がめざす「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」は、退職者連合がめざす社会像と共通しているのではないのでしょうか。

今、「一億総活躍」「女性が輝く社会」など華々しいスローガンの下で、あらゆる世代・層に格差・貧困が拡大しています。労働分野の規制緩和によって非正規・低賃金労働者が増加しています。そのしわ寄せは子ども・若者に顕著に現れています。満足に食事が摂れない子どもたち、不安定雇用や生活苦に追い込まれる若者たち。

中央労福協は、昨年より奨学金問題の改善に取り組んでいます。大学授業料の高騰や親の収入の減少によって、今や、大学生の2人に1人が奨学金を利用しています。しかし、卒業後数百万円以上の借金を抱え、不安定雇用や低賃金で返済に苦しむ若者が増えています。政府はようやく、給付型奨学金制度創設の検討に入りました。若者の未来を支えるよりよい制度とするため、10月より世論を高める運動に取り組みます。ぜひとも皆様のご理解・ご協力をお願いします。

さて、わが国の65歳以上の高齢者は人口の26.7%を占め、平均寿命は男性が80.79歳、女性は87.05歳、100歳以上の方は過去最高の6.5万人となっています。長寿は、人類の夢でもありました。しかし、高齢者の生活を取り巻く状況も厳しさを増しています。政府は、「負担増・給付削減」の社会保障制度見直しを進める一方で、数万円の現金を配るといった一時的な弥縫策に終始しています。超少子・高齢、人口減少社会を見据え、「世代間対立」を乗り越える社会保障制度の再構築を急がなければなりません。社会保障・税による再分配機能を強化する政策が何より求められています。

同時に「共助機能の発揮」により、地域で「居場所づくり」や「支えあい、助け合い」のネットワークづくりがますます重要です。特に、長年、職業や人生経験をつまれた皆様が地域で果たす役割はとて大きいと思います。

中央労福協は、退職者連合の皆様と連携を強め、「安心して暮らせる社会」づくりに取り組む決意を述べ、退職者連合のますますのご発展と、皆様のご健康・ご活躍を祈念いたしまして、連帯のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。